

## 2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年11月1日

上場会社名 相鉄ホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9003 URL <http://www.sotetsu.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 滝澤 秀之  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営戦略室部長 (氏名) 廣瀬 佳恵 TEL 045-319-2043  
 四半期報告書提出予定日 2019年11月13日 配当支払開始予定日 2019年12月2日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（個人投資家向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第2四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	139,111	4.8	18,036	△1.4	16,787	△3.3	10,617	△6.0
2019年3月期第2四半期	132,747	5.6	18,294	10.2	17,353	11.4	11,301	12.8

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 10,224百万円 (△7.7%) 2019年3月期第2四半期 11,077百万円 (7.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	108.37	—
2019年3月期第2四半期	115.33	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	607,751	152,992	25.2
2019年3月期	611,555	150,974	24.2

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 152,905百万円 2019年3月期 148,208百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	25.00	—	25.00	50.00
2020年3月期	—	25.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	273,600	5.0	28,700	△9.2	26,200	△11.5	16,400	△10.6	167.38

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2020年3月期2Q	98,145,499株	2019年3月期	98,145,499株
2020年3月期2Q	163,906株	2019年3月期	162,447株
2020年3月期2Q	97,982,352株	2019年3月期2Q	97,985,183株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、上記の業績予想に関する事項につきましては、添付資料 3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報)	8
(重要な後発事象)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当社グループの当第2四半期連結累計期間の経営成績につきましては、流通業やホテル業において新店開業等により増収となったものの、流通業、ホテル業の既存店の減収や費用の増加等の影響が大きく、増収・減益となりました。

営業収益は1,391億1千1百万円(前年同期比4.8%増)となり、営業利益は180億3千6百万円(前年同期比1.4%減)、経常利益は167億8千7百万円(前年同期比3.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は106億1千7百万円(前年同期比6.0%減)を計上するにいたしました。

各セグメント別の状況は以下のとおりであります。

## a. 運輸業

鉄道業におきましては、「デザインブランドアッププロジェクト」のコンセプトを反映したJR直通線用新型車両12000系5編成50両を新造いたしました。また、ホームドアの全駅整備に向けたホーム補強や定位置停止装置設置等の工事並びに天王町駅・星川駅の駅舎改良や周辺道路の整備を推進いたしました。さらに、JR線との相互直通運転計画では2019年11月30日開業に向けた準備を進めており、東急線との相互直通運転計画につきましても鋭意推進しております。そのほか、相模鉄道キャラクター「そうにゃん」のLINEスタンプ第4弾を発売したほか、相鉄・東急直通線用車両20000系が、鉄道友の会選定の2019年ローレル賞を受賞したことを記念して、「相模鉄道20000系 2019年ローレル賞受賞 記念入場券セット」を発売いたしました。

バス業におきましては、安全性を高めたASV(先進安全自動車)仕様の高速バス2両を導入いたしました。また、新たに大和駅から横浜駅西口行きの深夜急行バスの運行を開始したほか、日本初となる大型バスによる営業運行での自動運転の実証実験を、よこはま動物園正門と里山ガーデン正面入り口間で実施いたしました。

以上の結果、運輸業全体の営業収益は204億9千2百万円(前年同期比3.0%増)、営業利益は48億7千3百万円(前年同期比0.3%増)となりました。

## b. 流通業

スーパーマーケット業におきましては、藤沢市の「そうてつローゼン鶴沼店」をはじめ、14店舗において改装等、店舗の活性化を実施し、集客力及び収益力の向上に努めました。また、省力化を目的としたセミセルフレジを全店舗に導入するとともに、キャッシュレス化の推進として、41店舗でQRコード決済のPayPayを導入し、利便性の向上を図りました。

その他流通業におきましても、競争が激化する厳しい事業環境のなか、業績の向上を図るべく、積極的な営業活動に努めました。

以上の結果、流通業全体の営業収益は503億4千1百万円(前年同期比4.2%増)、営業利益は5億3千2百万円(前年同期比32.1%減)となりました。

## c. 不動産業

不動産分譲業におきましては、海老名市の「グレースシアタワーズ海老名」、東京都三鷹市の「グレースシアタワー三鷹」及び横浜市旭区の「グレースシアみなまきみらい」等の集合住宅並びに横浜市保土ヶ谷区の「グレースシアライフ横濱西谷」及び藤沢市の「グレースシアライフ湘南辻堂」の戸建住宅を中心に、集合住宅及び戸建住宅264戸を分譲いたしました。

不動産賃貸業におきましては、横浜市西区の「相鉄南幸第12ビル」を取得するとともに、大和プロムナード南側開発計画における建物新築工事を推進し、事業基盤の拡充に努めました。また、「相鉄ジョイナス」をはじめとした商業施設において、魅力あるテナントを誘致する等、収益力の向上に努めたほか、利便性の向上を図るため、横浜駅中央自由通路と横浜駅西口地下街との接続工事における地下階での連絡通路の全面供用開始に向け、工事を推進いたしました。

さらに、横浜駅西口及び相鉄線沿線の価値向上に寄与するため、地域の皆さまと連携した各種イベントの開催及び「みなまきラボ」等におけるエリアマネジメントへの取り組みを実施いたしました。

なお、引き続き横浜駅西口鶴屋地区等における市街地再開発事業の事務局業務の受託並びに泉ゆめが丘地区における土地区画整理事業の業務の代行により、沿線の街づくりを推進いたしました。

以上の結果、不動産業全体の営業収益は414億5千万円(前年同期比7.7%増)、営業利益は99億9千6百万円(前年同期比2.0%増)となりました。

## d. ホテル業

ホテル業におきましては、「横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ」において、客室の第四期改装をはじめロビー及びロビーラウンジ、ウエディング関連施設等を改装したほか、ニーズを捉えた多様な商品やメニューの提供を行い、集客力及び収益力の向上に努めました。

宿泊特化型ホテルにおいては、「相鉄フレッサイン 神戸三宮」及び「相鉄フレッサイン 大阪なんば駅前」を開業し、事業基盤を拡充するとともに、セルフチェックイン・チェックアウト端末「スマーレ」、情報配信デバイス「スマートプレート」及び自律床清掃ロボット等、ICT（情報通信技術）を活用した機器を導入し、お客様の利便性向上と業務効率化を推進いたしました。また、「ホテルサンルート」の直営店舗を順次「相鉄フレッサイン」にリブランドし、シナジー（相乗効果）創出やスケールメリットの発揮による運営効率化を推進いたしました。

以上の結果、ホテル業全体の営業収益は223億8千1百万円（前年同期比3.2%増）、営業利益は19億8千3百万円（前年同期比10.3%減）となりました。

## e. その他

ビルメンテナンス業におきましては、厳しい受注環境のなか、東京都心と相鉄線沿線エリアを重点営業エリアと捉え、新規物件の受注に向けた積極的な営業活動を図りました。また、ICTを活用した自動清掃ロボットの導入等につきましては、効果を測定するとともに業務の効率化を推進し、良質かつ安定したサービスの提供に努めました。

その他の各社におきましても、業績の向上を図るべく、積極的な営業活動に努めました。

以上の結果、その他全体の営業収益は114億2百万円（前年同期比0.1%減）、営業利益は6億2千1百万円（前年同期比6.6%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

（資産、負債、純資産の状況）

当第2四半期連結会計期間末の総資産につきましては、現金及び預金の減少等により前連結会計年度末に比べて38億4百万円減少し、6,077億5千1百万円となりました。

負債は、未払金の減少等により58億2千2百万円減少し、4,547億5千8百万円となりました。なお、有利子負債の残高は、借入金・社債合わせまして3,184億8千1百万円となり、29億9千9百万円減少いたしました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加等により20億1千7百万円増加し、1,529億9千2百万円となりました。なお、自己資本比率は25.2%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の業績等を踏まえ、通期の連結業績予想につきましては、2019年8月1日に公表しました数値から変更しております。

主に流通業やホテル業の減収により、営業収益は2,736億円（前回予想比0.9%減）、営業利益は287億円（前回予想比1.0%減）、経常利益は262億円（前回予想比0.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は164億円（前回予想比2.4%減）を見込んでおります。

※業績予想につきましては、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	27,971	15,749
受取手形及び売掛金	13,597	11,024
たな卸資産	31,561	29,315
その他	8,587	8,030
貸倒引当金	△53	△49
流動資産合計	81,663	64,069
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	195,921	191,910
機械装置及び運搬具（純額）	13,150	19,891
土地	250,135	247,969
使用権資産（純額）	—	11,582
建設仮勘定	12,590	15,188
その他（純額）	6,837	8,398
有形固定資産合計	478,635	494,940
無形固定資産		
のれん	1,967	1,817
借地権	3,514	3,514
その他	3,893	3,962
無形固定資産合計	9,376	9,295
投資その他の資産		
投資有価証券	8,063	7,525
長期貸付金	6	6
退職給付に係る資産	9,477	9,681
繰延税金資産	8,380	8,427
その他	16,492	14,343
貸倒引当金	△542	△539
投資その他の資産合計	41,879	39,445
固定資産合計	529,891	543,681
資産合計	611,555	607,751

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,327	8,251
短期借入金	44,145	58,503
1年以内償還社債	36,000	36,000
リース債務	121	466
未払法人税等	4,318	2,207
賞与引当金	2,554	2,347
その他の引当金	592	584
資産除去債務	170	94
その他	46,032	35,766
流動負債合計	141,262	144,222
固定負債		
社債	130,000	125,000
長期借入金	111,336	98,978
リース債務	1,277	11,126
再評価に係る繰延税金負債	23,235	23,225
退職給付に係る負債	20,158	19,631
長期預り敷金保証金	29,450	29,196
資産除去債務	2,594	2,756
その他	1,263	621
固定負債合計	319,317	310,536
負債合計	460,580	454,758
純資産の部		
株主資本		
資本金	38,803	38,803
資本剰余金	30,024	26,980
利益剰余金	77,290	85,446
自己株式	△333	△337
株主資本合計	145,784	150,892
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,351	2,974
土地再評価差額金	△407	△395
為替換算調整勘定	11	△74
退職給付に係る調整累計額	△530	△490
その他の包括利益累計額合計	2,424	2,012
非支配株主持分	2,766	87
純資産合計	150,974	152,992
負債純資産合計	611,555	607,751

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業収益	132,747	139,111
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	82,302	87,472
販売費及び一般管理費	32,150	33,602
営業費合計	114,453	121,075
営業利益	18,294	18,036
営業外収益		
受取利息	6	2
受取配当金	93	93
受託工事事務費戻入	108	53
保険配当金	65	70
雑収入	112	62
営業外収益合計	387	282
営業外費用		
支払利息	1,224	1,325
雑支出	103	206
営業外費用合計	1,327	1,531
経常利益	17,353	16,787
特別利益		
固定資産売却益	182	40
投資有価証券売却益	6	—
工事負担金等受入額	—	1,994
補助金	28	1,092
受取補償金	29	14
その他	—	4
特別利益合計	246	3,147
特別損失		
固定資産除却損	136	154
固定資産圧縮損	101	2,947
減損損失	12	—
その他	—	6
特別損失合計	250	3,108
税金等調整前四半期純利益	17,350	16,825
法人税、住民税及び事業税	5,684	6,093
法人税等調整額	279	77
法人税等合計	5,964	6,170
四半期純利益	11,386	10,655
非支配株主に帰属する四半期純利益	84	37
親会社株主に帰属する四半期純利益	11,301	10,617



(四半期連結包括利益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	11,386	10,655
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△186	△381
為替換算調整勘定	△3	△89
退職給付に係る調整額	△118	39
その他の包括利益合計	△308	△430
四半期包括利益	11,077	10,224
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,990	10,194
非支配株主に係る四半期包括利益	87	29

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

国際財務報告基準(IFRS)を適用する在外連結子会社において、第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号「リース」を適用し、原則としてすべての借手としてのリースを連結貸借対照表に資産及び負債として計上する方法に変更しております。当該会計基準の適用にあたっては、経過措置として認められている本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において有形固定資産の「使用権資産(純額)」が115億8千2百万円、流動負債の「リース債務」が3億6千4百万円、固定負債の「リース債務」が98億8千2百万円それぞれ増加し、投資その他の資産の「その他」が17億5千6百万円減少しております。また、当第2四半期連結累計期間の営業利益が9千2百万円増加し、経常利益及び税金等調整前四半期純利益が7千2百万円減少しております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	ホテル業	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
営業収益								
(1) 外部顧客への営業収益	19,639	48,300	36,619	21,496	6,691	132,747	—	132,747
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	257	1	1,851	197	4,720	7,027	△7,027	—
計	19,897	48,301	38,470	21,693	11,411	139,774	△7,027	132,747
セグメント利益	4,858	784	9,803	2,211	665	18,322	△28	18,294

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)  
報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	ホテル業	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
営業収益								
(1) 外部顧客への営業収益	20,216	50,340	39,487	22,190	6,877	139,111	—	139,111
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	275	1	1,963	190	4,524	6,956	△6,956	—
計	20,492	50,341	41,450	22,381	11,402	146,067	△6,956	139,111
セグメント利益	4,873	532	9,996	1,983	621	18,006	30	18,036

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## (重要な後発事象)

## (社債発行について)

当社は、無担保社債を下記の条件で発行いたしました。概要は以下のとおりであります。

## 第41回無担保社債(相模鉄道株式会社保証付)

- |              |                    |
|--------------|--------------------|
| ① 発行総額       | 200億円              |
| ② 発行年月日      | 2019年10月25日        |
| ③ 発行価格       | 額面100円につき100円      |
| ④ 利率         | 年0.710%            |
| ⑤ 償還期限及び償還方法 | 2039年10月25日に満期一括償還 |
| ⑥ 用途         | 社債償還に充当する予定です。     |